

第1回図画工作科研修会 報告

令和7年5月22日 浜松市総合産業展示館

1年間の研修の流れを確認しました！

第1回研修会では、図画工作科研究部の1年間の研修の流れを確認し、夏に開催される実技研修の内容について話し合いました。今後も子供たちの表したい思いに寄り添うことのできる授業の工夫や手立てを各校図工主任の先生方と一緒に考えていきたいと思えます。



講話

教科書と指導書の活用について

日本文教出版 小学校図画工作編集部 佐々木 彩氏から教科書の見方・使い方について講話をしていただきました。講話の中では、教科書に掲載されている授業の様子や作品が、全て実際に取材して撮影したものであることが語られました。生き生きとした子供の様子や活気あふれる授業風景の写真から「子どもの心が動いた瞬間」＝「今まさに学んでいる姿」が伝わってきます。

子供たちが「失敗しないように…」や「うまくできるように…」と、作品の出来栄を気にするのではなく、自分の思いが完璧に表現できなくても、自分で考え、表現できたもののよさを認め合ってほしい。そのような思いで教科書は作られているそうです。

子供の「こう表したい！」という思いを引き出し、実現するための工夫がたくさん詰まった教科書には、以下のような記号で分かりやすく題材の目標について書かれています。



これらのマークは上から「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を表しています。教科書にはマークの横にそれぞれの目標が書かれています。また、教科書の朱書編では、目標の詳細や資質・能力を発揮した子供の姿がそれぞれのマークに対応して書かれており、教科書の紙面と照らし合わせながら活動の流れや評価のポイント、指導の手立てなど確認することができます。指導解説編では、さらに詳しい評価規準や、各題材の指導観や題材観など、指導する上で押さえておきたい視点や手立てなどが書かれています。

教科書と教科書の朱書編、指導解説編を併用して、教材研究を進め、子供たちの表したい思いに寄り添える授業計画を進めていただければと思います。また、「これで解決！図工の授業」という冊子を各校図工主任の先生方に配布しました。非常に分かりやすく授業作りについて解説されていますので、ご参考にしていただけると幸いです。

